

第6回 第4次清瀬市民地域福祉活動計画策定委員会概要

《会議概略》

日時 令和4年7月25日（月）9時30分～11時20分

場所 コミュニティプラザ 会議室1

オンライン

出席 赤川都 石崎勇仁 小滝一幸 後藤清 高橋紘之 土屋テル子 長嶋潤 林清
菱沼幹男 山村康一 渡邊浩志

欠席 岩崎雅美 齋藤靖之 増田恵美子 麦倉稔

傍聴 1名

事務局 山下晃 新井勘資 星野孝彦 関口美智子 富田千秋 小林浩子

1. 開会

社会福祉協議会事務局長より

2. あいさつ

社会福祉協議会会長より

3. 新委員紹介

渡邊委員よりあいさつ

市役所人事異動に伴う交代となる。よろしく申し上げます。

4. 第5回策定委員会議事録について

★ 資料1に基づき、事務局より説明

確定とし、委員名は伏せ、ホームページにて公開する。

5. 福祉のまちづくり懇談会の報告について

★ 事務局より説明

委員長 福祉のまちづくり懇談会の報告があった。参加された委員からも感想や意見等をいただきたい。

委員 中清戸の懇談会に参加した。福祉だけではない生活の課題が多く出され、私たちがどのように関われるのかわからないと感じた課題もあり、自信を無くした。話を聞くと、地域の特性があるとも感じた。専門職がどのように関われるのか考えていく必要があるが、資源の偏りもあり、そのあたりが今後の課題だ

ろう。当日は硬く構えて参加したが、話しているうちにフランクな関係性になってきた。このような場が地域のつながりや関係性構築につながってくるのではないだろうか。

委員 3か所の懇談会に参加した。事務局で予約制としていたため10名くらいの参加かと予想していたが、それ以上の参加があり、地域の方が関心をもってきているという印象を持った。自分の身近に配偶者を亡くされた方がいるが、懇談会でも高齢者一人暮らしの課題が出されていた。地域福祉活動計画が出来上がったあと、十小地域で進めている地域づくりの会の活動につなげていけるようにお願いしたい。

委員 けやきホールの懇談会に参加した。地域活動推進の担い手に関心をもって参加したが、PTA や支え合い活動に関わる方、看護師など多様な参加者がいて、計画推進の力になると感じた。交流できたことはとても有意義だった。ただ、つながりのない方とどうつながりを作っていくかは課題だろう。

委員 野塩の懇談会に参加した。集まった人が和気あいあいとしており、懇談会自体を継続していく必要もあるのではないかと強く感じた。団地の人からは、避難の時どうしたらよいただろうと課題が出され、それについて話し合えた場でもあり、重要な場だった。途中抜けたが、戻ってきたときにグループのまとめができており、グループの力がすごいなと感じた。

委員 コミュニティプラザと野塩の懇談会に参加したが、参加者の年齢層が違っていた。出てきた問題では、老人に関することや人と人との出会いや機会がないことなどが印象的。老人の会おう場がない、話し合う場がないというが、それは果たして福祉なのか、とも考えさせられた。世代を超えて話し合う場が欲しいという意見もあり、その辺にヒントがあるのではないかと考えた。

委員 けやきホールの懇談会に参加した。福祉関係はわからないので、様子を知ろうという思いで参加したが、地域課題は様々あるのだと感じた。自分の親が誰に頼れるだろうかと自分自身のことも重ねて考えた。高齢者は毎日何かしらの困りごとがあるだろうが、自治会がある地域ではあっても気軽にお願いできるものでもない。そういった問題解決が地域課題解決につながるのではないかと考えさせられた。

委員 下宿の懇談会に参加した。どんな感じの会になるのか、硬い場なのかと思ったが、温かく優しい雰囲気ですり上がった場だった。清瀬のことが大好きだということが伝わり、だからこそこんな取り組みがあるとよいという積極的な意見につながったのだろう。自治会のような組織ではなく、趣味や気の合う仲間が見つかるような場の方が集まりやすいのではないだろうかと考えたが、仕組みが先にないと人づくりも地域づくりもつながらないのではないかととも思う。社協や行政の間にコーディネーターが入るとつながっていくだろうが、まだちょっと遠く、さらに間に埋める近所の人や知り合いが必要なのではないだろうか。コミュニケーションをつくっていくことが大事なのだと感じた。

委員 野塩を除いてすべてに参加した。雑談も多くあったが、その中にリアルな話が聞かれ、興味深かった。例えば、独居高齢者であっても他の方のお世話ができる方はお世話しているという話も聞いた。竹丘地域では、転居してきた外国人の方のごみ出し等の課題があるという話もあり、ニュースで聞く話ではなく、この地域に実際にある課題だと感じた。また、学校支援本部や地域づくりの会、避難所運営協議会も知られていないということもわかり、もっと知名度を上げていく必要があると感じた。全体的に清瀬が好きという人が多かったという印象があるが、今後は、現役で働いている層など、日中は市外にいて、夜間や土日には清瀬にいる層の意見も聞いてみたいと思う。

副委員長 まずは6回すべて実施できたということ自体が良かった。同じグループにいた女性が、自治会から行くようにといわれて義務感で出たが、参加してみたら楽しかったし、計画のこともよく分かった、深まってきたといっていた。中学生から80歳代までがフラットな場で話すことができたのが良かったのではないかな。また、テーマを絞らず話したので、福祉に限らず、いろいろな活動が生まれる場であり、出会える場であると感じた。

委員長 授業の関係で参加できなかったが、日本社会事業大学の大学生も参加した。地域づくりの会に来られていない方の参加はどうだったか。

事務局 地域づくりの会に関わっていない層もいた。もともと社協とつながりがあった方もいるが、掲示板を見たという方、障害児の親同士が誘い合って参加いただくなど、新しい方も何人かいた。

委員長 参加された方がそれぞれの地域づくりの会の参加につながるとよいし、地域づくりの会で今回の資料を共有して、話し合いが継続できるとよい。計画完成後にはフォーラム実施も検討しているが、計画内容を地域に返していく場をつくってもらえるとよい。その際には社大生にも声掛けしていただけるとよい。開催してよかったと思う。

6. パブリックコメントの報告について

★ 資料3に基づき、事務局より説明

委員長 ご意見はゼロとの報告だった。懇談会に参加できない層のご意見をいただく機会としては大事な取り組みだった。周知方法は検討する必要があるだろう。

7. 計画素案について

(1) 計画の基本理念及び修正・変更案について

★ 資料4、資料5に基づき、事務局より説明

委員長 基本理念についてご意見はいかがか。

委員 「ちょうどいい」ということはどういうことか、と思った。

委員長 「ちょうどいい」という案はどのようなところから出てきたのか。

事務局 いろいろな懇談会で、例えば認知症があっても、この人の強みが活きる場、

特技など発揮できる場があるとよいという意見などがあり、感覚的にはなるが、それぞれにあったちょうどよい場がある地域という考えで案を出した。

委員 「無理なく、自分らしく」という言葉の方がわかりやすいと感じた。

委員 「支えあう、手をつなぐ」という場がないから「手をつなぐ」なのか。ただ、手をつなぐのは気恥ずかしい。老人同志が会って話したい、子どもとも話したい、大学生とも話したい、という声もあるので、会って話したいという気持ちが入ったほうがよいのではないかと感じた。

委員長 「手をつなぐ」となるとハードルが上がるという意見だった。ここでは「心をつなぐ」という意味合いだろう。

委員 スローガンについては違和感なく良いと思った。「手をつなぐ」「つながる」とかなのだろうかと思うが、表現は難しい。

委員 どういうのが良いのだろうかとはすぐに思いつかない。ただ、「手をつなぐ」のは少しハードルが高いように感じる。「心をつなぐ」というのも難しいかもしれない。

委員長 次回に確定していけるとよいので、本日は委員の皆さんのご意見を出していただき、事務局で再度案を考えていただき、次回につなげたい。

委員 基本理念はインパクトを与えること、単純に考えてみるとよいのではないか。地域づくりで、どう手をつなぐのか、その意味を地域の人にわかりやすく伝えることができるのか。サブタイトルは「無理なく、自分らしく、心地よく暮らす」という意味で「ちょうどいい」という言葉を使っていると理解した。

委員長 「つなぐ」がハードルが高いのであれば、「みんなで作ろう 地域の輪」とすることもできるだろう。「地域の輪」にはつながり合うという意味合いも含まれる。「無理なく 自分らしく」という表現もあるだろう。

副委員長 「みんなで作ろう地域の輪～無理なく自分らしく～」だと、ずっと入ってくるが、インパクトには欠ける。

委員長 計画書には基本理念を説明する文章があったほうがよいだろう。表紙裏などに基本理念に対する想いなども書いてもらえるとよい。

本日の意見を参考にしながら、次の案を出していただき、次回検討としたい。その他の基本目標などについては、これまでの意見を踏まえた修正案となっているがいかがか。

《異議なし》

(2) 評価指標について

★ 資料6に基づき、事務局より説明

委員長 推進評価委員会で検討する際に、どこの観点で評価を行うかというのがこの評価指標となる。以前の評価指標は事業の目標的などころもあり、評価はしづらなものだった。ただ、数字だけがすべてではなく、こういった課題と成果があったかということも踏まえて評価を行うものとなる。ご意見等があればいただき

い。

委員 よく考えられている。何を指すかがわかりやすい。回数は必要なことではあるが、手段の目的化にならないような注意が必要だろう。やった結果どんなアウトプットがあったのかというところが大事。また、項目によってはアウトプットしたものに対する満足度がどうなっているのかということも加えていてもいいのではないか。

委員長 評価指標を100くらい出している地域もあったが、数値目標を出すとそれに縛られてしまう。実態をみていく指標が評価指標であって、その結果どのような成果や課題があったのかというアウトカムについては、担当者の意見や参加者の満足度なども踏まえた評価を行うことが必要だろう。

委員 実際に取り組んでいる事業もある。例えば、ふれあいコールなど実際にある事業の現状を知りたい。

事務局 既存事業の現状は記されていない。ふれあいコールは現状20名ほどが定期的に利用されている。ただ、計画全体では、現在まだ行われていない取り組みも多くある。これまではどうだったかということも示したうえで、この計画によりどう変化したかという点も示していきたい。

委員長 現状値や参考値を出して、どう変化したか見ていくということもある。項目によるので、検討いただきたい。

委員 評価指標に参加者数という項目があるが、延べ人数を出すのも必要だろうが、実人数はどのくらいなのか。同じ人が何回も参加しているのか、新しい参加者がどれくらいいるのかというのが見えるとよい。

委員長 大事な視点。延べ人数も出しつつ、新規の参加者がどのくらいいるのか見るとよい。

委員 よくまとまっている。14ページの「財源づくり」という項目を明示している点がよいと思った。一方、この計画の半分程度は地域福祉コーディネーターにかかっているように感じるので、配置数の明確化ができないものか。

事務局 地域福祉コーディネーターは広く配置していきたいという思いはあるものの、どのような地域割がよいのか、何人いればくまなく支援できるのか事務局でも十分見えていない。モデル配置をして実績を積み上げ、評価推進委員会でも意見をいただきながら、複数配置につなげていきたいと考えている。

委員長 細やかな配置をしている地域は小学校区、また中学校区としている。個人的には地域福祉コーディネーターが地域包括圏域に2名くらいの配置ができるとよいのではないかと考えている。

行政の方の力も必要なので、計画推進の要となる専門職の配置について、検討をお願いしたい。

委員 信愛地域包括支援センターの生活支援コーディネーターとともに、きよせネクストというたすけあいの仕組み立ち上げを進めている。一定地域でコーディネートするリーダーを探しているが、みつからない地域もあり、人を集めるというこ

とは難しいと感じている。

- 委員長 社協では全世帯アンケートを信愛エリアでは行ったことはあるか。
- 事務局 これまで全世帯調査に取り組んだのは、清明小地域づくりの会立上げ時と四小地域づくりの会立上げ時になる。清明小地域は一地域での実施だったが2名程度中心的に参加いただいている。また、四小地域では全エリアで調査を行い、新しい方が3名程度話し合いに参加された。
- 委員長 思いを持った方はいてもつながることが難しい。生活支援コーディネーターや社協などと連携して全世帯アンケートなどにも取り組みながらすすめていただくとよい。
- その他ご意見がなければ、以上で議事を終了したい。

8. その他

★事務局より事務連絡

- ・委員報酬については、前回同様1か月以内の振込とし、通知はしないので確認をお願いしたい。
- ・次回委員会は9月5日（月）9時30分から予定している。会場は別途お知らせする。

9. 閉会

社会福祉協議会事務局長より